

◇会 告◇

令和6（2024）年度 総会・研究大会の開催

「災害から群馬の文化財を守るには？-歴史と経験から学ぶ-」

◆ 趣 旨：本会では、令和5年度研究大会「ぐんまの飛躍の“糧＝文化財”の活用を考える」において、文化財が地域の価値向上や魅力増進に寄与することを再確認し、その寄与の源となる「研究」の進展を持続可能にするには、素材となる「文化財」の保全が不可欠であることを強く認識するに至った。近年、様々な災害を契機として、そうした文化財が存亡の危機に瀕することに警鐘を鳴らす声が増している。災害に直面したとき、命を守ることが最優先される中で文化財をどのように守っていけるか、その実行にはこれまで以上の意識の向上が必要となる。そこで、本研究大会では3つの視点から災害から群馬の文化財を守ることを考えてみたい。

1つめは「群馬の歴史」である。他地域にくらべ災害が少ないといわれるが、歴史を紐解けば数百年単位で大災害に遭遇してきた。その中で人々は現実と向き合い、様々な工夫を凝らして日々の営みを続けてきた。我々の祖先は、どのようにして暮らしや政治・経済活動の基盤を築き、地域の文化や伝統を守ってきたかを探ってみる。2つめは「共通の経験」である。誰しもの記憶の中にある3.11東日本大震災、その発災時や直後に文化財はどの様に守られたのか、そうでなかったのか、その現実を知ることを通して災害への対応を考える。3つめは「これから」である。群馬県では文化財防災について県を挙げて取り組む組織が立ち上げられたが、本会もその一翼を担っている。こうした文化財防災の取組への展望を共に考える。

本大会を通して、文化財が地域文化の向上と振興により一層寄与することを目的として開催する。

◆ 日 時：令和6年7月6日（土）11:00～16:50（受付：10:30～）

◆ 会 場：共愛学園前橋国際大学 1号館 1101 教室〈チャペル〉（群馬県前橋市小屋原町 1154-4）

◆ 主 催：群馬県地域文化研究協議会 ◆ 共 催：共愛学園前橋国際大学

◆ 後 援：（6機関・団体を予定）

◆ 参加者：先着100名（事前申込み不要、会員外も参加可）

◆ 資料代：300円

◆ 内容・日程：

I 令和6年度総会（本会会員のみ） 11:00～12:00

〔令和5年度活動報告・決算報告・会計監査、第22期役員改選、令和6年度活動計画・予算、その他〕

II 令和6年度研究大会 13:00～16:50

1 開 会 13:00～13:10 開会挨拶・趣旨説明

2 特別公演 13:10～14:20

「東日本大震災からの復興調査を振り返って－岩手県の取組について－」

岩手県立遠野緑峰高等学校

菅 常久 氏

3 報 告 14:30～15:50

(1) 「前近代～近代の地域拠点諸施設の立地について－防災立地の歴史性－」

(公財) 群馬県埋蔵文化財調査事業団

飯塚 聡 氏

(2) 「災害を想定して、「文化財」をどう守っていくのか？－文化財防災と歴史資料保全活動－」

群馬県地域創生部文化財保護課

小嶋 圭 氏

4 シンポジウム 15:55～16:45

「災害から群馬の文化財を守るには？－歴史と経験から学ぶ－」

パネラー 菅 常久 氏・飯塚 聡 氏・小嶋 圭 氏（司会）深澤敦仁 氏

5 閉 会 16:45～16:50

*会場周辺には飲食店が少ないため、参加される方は事前に昼食等を各自ご用意ください。

【問い合わせ：gunmabunka@gmail.com】